

<p>8. アオスジアゲハ</p> <p>成虫が観察される時期 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12</p> <p>林の周辺や都市部。特に、クスノキ科植物の周辺。</p> <p>◇南方系のチョウ。尼崎市など都市部で最もよく見かけるチョウのひとつである。幼虫はクスノキ・ヤブニッケイ・タブノキなどのクスノキ科の植物を食べる。クスノキは常緑樹で寿命も長く、都市の緑化に利用されてきた。このため、食草の豊富な都市部で増えてきたと考えられている。成虫の翅は黒色で、前翅と後翅を貫くように鮮やかな青緑色の帯があるのが特徴。高いところを素早く飛んでいることが多い。</p>			 <p>アオスジアゲハの幼虫</p>
<p>9. スズメバチ アシナガバチ</p> <p>成虫が観察される時期 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12</p> <p>草原、人家。</p> <p>◇チョウやガの幼虫(ケムシやアオムシ)を狩ることが多い。食物連鎖上位の肉食系のハチ。本来は幼虫の餌となる昆虫が豊富な草地を必要とするが、ジュースの飲み残しなど、市街地には成虫の餌となるものも多いため、近年市街地に生息地を移し、都市部の昆虫を狩って子育てする種類がいると言われる。特に秋季は攻撃的になるので注意が必要である。</p>		 <p>スズメバチ</p>	 <p>アシナガバチ</p>
<p>10. カマキリ</p> <p>成虫が観察される時期 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12</p> <p>川原や林縁の草むら。</p> <p>◇体長は2~9cmであり。色は緑色か茶色である。体は細長く、6本の脚のうち、前脚が鎌(かま)状になっている。鎌には多数のトゲがある。頭部は逆三角形で、2つの大きな複眼(ふくがん)をもつ。おもに昆虫を捕食し、捕食時には、鎌状の前脚で獲物を捕える。前脚を持ち上げて獲物を待ち伏せる姿が手を合わせて祈っているように見えることから、「拝み虫(おがみむし)」とも呼ばれる。</p>			 <p>カマキリの卵</p>
<p>11. アメリカザリガニ</p> <p>観察される時期 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12</p> <p>平野部の水田、用水路、池など、流れのゆるい泥底の水辺。</p> <p>◇北アメリカ原産の外来種であり、体長は10cm程度。体色は赤茶色。第1脚が大きなハサミとなっており、特にオスのハサミは大きく発達する。天敵はブラックバス・ウシガエル・サギ類などである。外敵に対して、鉗をふりあげて威嚇することもある。水草・小魚・水生の昆虫・動物の死骸など何でも食べる雑食性。元々、ウシガエルの餌として日本に持ち込まれたものが逃げ出し、現在は北海道を除く日本全国に広く生息している。緊急対策外来種に指定されており、野外に放してはならない。</p>			
<p>12. ウシガエル</p> <p>観察される時期 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12</p> <p>水路、川、池、田んぼ。</p> <p>◇アメリカ・カナダ原産だが、食用として世界中に導入され、各地で定着している。成体の体長は11~18cmと大型で、昆虫・カニ・エビ・魚類などの小動物を捕食していることが報告されており、生態系への悪影響が懸念されている。「世界の侵略的外来種ワースト100」に選定されているほか、日本では「特定外来生物」にも指定されている。水辺の茂みや水面から「ウォー、ウォー」と牛のような声が聞こえたら本種である。</p>			
<p>13. その他カエル</p> <p>観察される時期 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12</p> <p>水路、川、池、田んぼ。</p> <p>◇市内ではニホンアマガエル、ヌマガエル、ツチガエル、トノサマガエルなどが見られる。なかでもニホンアマガエルは指先に吸盤があり、樹木やコンクリートの壁などをよじ登ることができるため、他のカエルよりも移動能力が高く、市街地で見られることも多い。幼生の頃はオタマジャクシと呼ばれ、水中でエラ呼吸するが、カエルになると肺や皮膚で呼吸するようになる。水辺環境の悪化や病原菌などによる影響で、世界的に個体数の減少や絶滅の危機が報告されている。種によって異なる鳴き声を持つ。</p>		 <p>トノサマガエル</p>	 <p>ニホンアマガエル</p>
<p>14. トカゲ</p> <p>観察される時期 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12</p> <p>人家の周辺、日当たりの良い草地や石垣など。</p> <p>◇体長は16~25cm。幼体と成体で体色が著しく違う。成体の体色は茶色で、体の側面には濃い茶色の線があるが、幼体は黒っぽく、体に5本の金色の縦線があり、鮮やかな青色の尾をもつ。春や秋の晴れた日には、日当たりの良い場所で日光浴する姿がよく見られる。尾をつかまれると簡単に切れて、切れた尾が激しく跳ねまわる間に逃れる。形態がよく似たものとしてカナヘビがいるが、カナヘビは皮膚がザラザラとした感じがするのに対し、トカゲは光沢がある。</p>		 <p>ニホントカゲ(成体)</p>	 <p>ニホントカゲ(幼体)</p>
<p>15. ヘビ</p> <p>観察される時期 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12</p> <p>水辺、草原。人家周辺。</p> <p>◇手足が退化し、細長い体は鱗に覆われている。細長い体をくねらせて波のような動きで進む。体長80~250cm程度。カエルやネズミ、小鳥などを食べる。農家では穀物を食べるネズミを狩るので大切にされてきた。嗅覚が発達しており、舌をひらめかせることによって臭いを感じ、獲物を追う。目と鼻の間に赤外線(動物の体温)を感じ取る器官をもつものもある。</p>		 <p>ヤマカガシ</p>	 <p>シマヘビ</p>

16. ツバメ	観察される時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	人家の軒先、水辺。												
◇日本では九州より北で繁殖する夏鳥で、頭部から背中にはつやのある黒色、額と喉は赤色、胸の上部に黒い帯、腹が白といった特徴がある。尾羽の両端が長く深いV字型で、オスの尾羽はメスより長い傾向にある。 巣は上部が開いたお椀型をしている。民家や商店の軒先など、人通りの多い場所に泥と枯草で巣を作る。これは、ヒナや卵を狙う天敵であるヘビ、カラスやスズメが近寄らないためだと考えられている。													
17. スズメ	観察される時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	人家の近く。												
◇全長は14～15 cmで体重は18～27 g程度。頭から背中が茶褐色で、白い頬に黒い斑点があるのが特徴。喉と目の周りも黒い。鳴き声は一般的に、「チュンチュン」と表され、地上では両足で飛び跳ねながら移動する。雑食性であり、地上で草の種子や人の食べ残しを食べている姿をよく見かけるが、春から夏の繁殖期には昆虫をよく食べており、害虫の抑制にも貢献している。繁殖期にはオス・メスのつがい子育てをするが、秋から冬には大きな群れになって行動する。													
18. シラサギ	観察される時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	池や河川、田んぼ、海岸沿いなど。												
◇ペリカン目サギ科に属する鳥を総称してサギと呼ぶ。水辺を主なすみかとする水鳥で、長くちばしと脚を持っており、飛ぶときに首をS字に折り曲げるのが特徴である。シラサギとは白いサギの総称でコサギ、チュウサギ、ダイサギなどが代表例。一般にコサギとダイサギは河川で魚類・カエル類・甲殻類を、チュウサギは水田で昆虫類を主に捕食しており、生息場所に違いがあるが、いずれも餌となる生物の多さを示す指標になる。この他に灰色(アオサギ)、紺・白色(ダイサギ)、オレンジ色(アマサギ)も生息する。													
19. コウモリ	観察される時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	田んぼや、市街地。餌の集まる街灯付近や水辺の上空に多い。												
◇灰色がかった茶色。体長8 cm～25 cm。夜行性。昼間は主に洞窟や樹洞、人家の屋根裏などのねぐらで休み、夜間にカ、ユスリカ、ヨコバイなどの昆虫類を主とする餌をとるために飛び回る。最も身近に見られるのはアブラコウモリで、市街地を中心として、平野部に広く分布する。日没後2時間程の時間帯に最も活発に活動する。													
20. ヌートリア	観察される時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	水辺付近												
◇上毛は褐色で長く粗い。下毛は暗い灰色で防水性が高い。鼻先の毛は白い。頭部は大きく体はずんぐりしているひょうたん型であり、後足には水かきがある。オレンジ色の大きな前歯をもっている。食性は草食であり、ヨシなどの水辺の植物の葉や茎を食べている。水辺の土手に穴を掘って住んでおり、日中も活動するが、基本的には夜行性である。南米原産の外来生物であり、高い環境適応能力と繁殖能力をもっており、環境省により特定外来生物に指定されている。													
21. カメ	観察される時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	池や河川、水路などの水辺												
◇市内で見られる多くは、ミシシippアカミミガメ(ミドリガメ)。アメリカからペットとして持ち込まれ野生化した外来種。体は全体的に緑色で、目の後ろが赤い。池や河川の護岸でよく甲羅干しをする姿が見られる。また、クサガメも大陸から移入された種である。その他、市内には在来種のイシガメ、スッポンが生息する。クサガメは、体が比較的黒いのが特徴。スッポンは扁平で柔らかい甲羅をもち、鼻が尖っている。イシガメは極めて少ない。なお、ミシシippアカミミガメは緊急対策外来種に指定されている。													
22. アライグマ	観察される時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
◇頭胴長40～60cm、尾の長さ20～40cm。毛色は灰色～茶色。長いシマシマ模様の尾があり、目の周りの黒い部分が、左右に長い帯状の模様になっていることが特徴。よく似たタヌキは、尾がやや短く、シマシマは無い。目の周りの黒い部分は帯状にならず、顔の下半分全体が黒いことで区別できる。可愛らしいが気性が荒く、見かけても決して近づかないこと。生態系や人への影響が大きく特定外来生物に指定されている。													

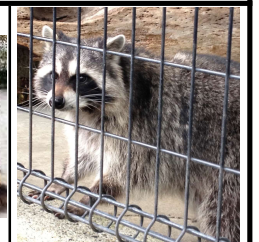


コサギ

ダイサギ



ミシシippアカミミガメ



* 写真提供

ツクツクボウシ (HP「ぶんぶん・ぷらっと・・・写真ブログ」様)

スズメバチ (吉田様)

スズメ (HP「ほくせつの生き物」(下山様))